

本学学生の性役割志向性と被服行動との 関連性について

～統計手法赤池情報量規準による分析～

笹山 益子 青海 邦子

The Relationship of Attitudes toward Sex-role Orientation
and Clothing Behavior of Students at Otemae College

～The analysis by the statistics method of
Akaike's Information Criterion～

SASAYAMA Masuko SEIKAI Kuniko

1 はじめに

現代の若者に、二つの大きな変化が起っていることが、最近の「現代人の生活意識と行動調査」¹⁾により報告されている。

これによると「変化のひとつは、生まれた時から何もかも満たされ、不自由を感じたことのない世代は、何事にも淡白で、切替えが早く、高望みをするのではなく、自分サイズのところを大切にしていきたいと考えている点である。

また、もうひとつは、従来言われているのとかなり違った傾向を示すという点にある。それは、流行や新しいことに敏感なはずの若い世代が老成した一面を見せており、「若い人は未熟である」といった少し前なら当り前の意識を変換させる必要も生じる。20代前半の若者が周囲との軋轢を避けるためには伝統を踏襲したり、義理や礼儀をわきまえることも必要であると考えているのが今どきの若者のソツのなさを表しているようでもある。「自分は自分」、「私重視」と言いながらも一匹狼的な強さはなく、他人の眼を気にしており、周囲とうまくやっっていこうとする意識は強いようである。」との若者の現状を論じている。

そこで、本研究では、若者の現状に着目して、私方大学生（男女）および短期大学生（女）を対象に、心理尺度テストとして性役割志向性尺度²⁾を用い、これと服装や化粧観などに対する意識と行動に関する調査を質問紙の配布による集合調査法で実施し、現代若者の衣服や化粧についての意識や動向、その心理的背景を把握することを調査分析の目的と

している。

まず、心理尺度テストによって、大学生・短期大学生が社会的平等観（政治的、経済的）や男女平等観の強い進歩的な考え方を持っているか、または、保守的で伝統的（古風）な考え方であるのかについて心理的側面から分析・検討する。そして、この社会的、心理的な観点と多様な被服行動や化粧観・おしゃれとの相互の関連性について検討を試みた。

2 調査の概要と目的

2・1 調査の対象者

大手前女子短期大学生活文化学科学生

有効数 100名

大手前大学社会文化学部学生

有効数 男子 57名

女子 51名

大手前大学人文科学部学生

有効数 男子 41名

女子 99名

2・2 調査時期

2001年6月4日～6月9日

2・3 調査方法

心理スケールおよび服装や化粧観などに対して、意識と行動に関する調査を質問紙の配布による集合調査法において実施した。

2・4 調査の内容

〔1〕心理テストとして、性役割志向性尺度（以下 ISRO と略記するが表1のQ1からQ16の16項目の設問が該当する）において、ISRO 総得点の平均値の差の検定を行った。尺度を調査し、コード表（表2）により点数化を行った。順位尺度（5点法）の個人得点の総合点を算出し、また、Dreyer, N. A. らによる方法を準拠した総得点のカテゴリー化を行い、服装や化粧観に対する意識と行動との関連性を把握するために AIC (Akaike's Information Criterion) による多次元分割表分析を行った。

本学学生の性役割志向性と被服行動との関連性について

表1 性役割志向性尺度 (ISRO)

変数名 (略号)	設問項目	カテゴリー区分				
		非常に 賛成	やや 賛成	どちら でもない	やや 反対	非常に 反対
Q 1	女性は家庭の管理にあたるべきであり、国家の管理運営は男性に任せておくべきだ。	A	B	C	D	E
Q 2	女性がキャリアを求めるならば、大方の女性は子どもを持つべきではない。	A	B	C	D	E
Q 3	母親が働いていると、就学前の児童には害のおよぶことがある。	A	B	C	D	E
Q 4	仕事を持つということは、自分自身の人生を生きているということだ。	A	B	C	D	E
Q 5	子どもを産むことが女性の証である。	A	B	C	D	E
Q 6	キャリアを求める女性にとって、出産や育児がその障害となることがあってはならない。	A	B	C	D	E
Q 7	特別なケースを除き、妻が料理や掃除をやり、夫が家族のために金を稼いでくるべきだ。	A	B	C	D	E
Q 8	女性にも男性と全く等しい雇用の機会が与えられるべきである。	A	B	C	D	E
Q 9	女性は家において、子どもの世話をしている方がずっと幸福である。	A	B	C	D	E
Q 10	働く母親でも、働いていない母親と全く同じように、子どもとの間にあたたかな安定した関係を確立することはできる。	A	B	C	D	E
Q 11	女性は自分のキャリアを考えるよりも、まず育児と家事を自分の仕事であると心得るべきである。	A	B	C	D	E
Q 12	重要な仕事を数々抱えていても、やはり女性の本来いるべき場所は家庭なのである。	A	B	C	D	E
Q 13	私は、夫が家庭内の雑用をうけもち、妻が家計をまかなってもいいと思う。	A	B	C	D	E
Q 14	男でも女でも、同じ仕事に対しては同じ賃金(報酬)が支払われるべきだ。	A	B	C	D	E
Q 15	私は、妻に働かせて自分は子ども面の世話をするような男性を敬することはできない。	A	B	C	D	E
Q 16	肉体的な重労働が女性に向かないように、精神的、感情的特質ゆえに女性に向かない仕事もいろいろあるということを、女性自身が自覚すべきである。	A	B	C	D	E

表2 ISRO の採点コード

設問項目	非常に賛成 A	やや賛成 B	どちらでもない C	やや反対 D	非常に反対 E
Q 1	1	2	3	4	5
Q 2	1	2	3	4	5
Q 3	1	2	3	4	5
Q 4	5	4	3	2	1
Q 5	1	2	3	4	5
Q 6	5	4	3	2	1
Q 7	1	2	3	4	5
Q 8	5	4	3	2	1
Q 9	1	2	3	4	5
Q 10	5	4	3	2	1
Q 11	1	2	3	4	5
Q 12	1	2	3	4	5
Q 13	5	4	3	2	1
Q 14	5	4	3	2	1
Q 15	1	2	3	4	5
Q 16	1	2	3	4	5

本学学生の性役割志向性と被服行動との関連性について

〔2〕服装や化粧観に対する意識と行動に関する調査としては、アンケートⅡQ17～Q59（表3-1～表3-11）が該当する。

表3-1 被服行動

変数名 (略号)	設問項目	カテゴリー区分			
		そう思う	やや そう思う	やや 思わない	そ う 思 わ な い
Q17	あなたは自分のファッションに自信があるとおもいますか。	1	2	3	4
Q18	慶弔の式には伝統的な民族衣装である和服を着たいと思いますか。	1	2	3	4
Q19	成人式に着物を着たいと思いますか。	1	2	3	4
Q20	人間は服装よりも自分自身が大切だから、着るものにあまりこだわらない方がよいと思いますか。	1	2	3	4
Q21	あなたは他人と同じような服装をするのが嫌いで、個性的な服を着る方だと思いますか。	1	2	3	4
Q22	あなたは有名ブランドの服を着たいと思いますか。	1	2	3	4
Q23	あなたはT.P.O(時、場所、場合)に合わせて適切な衣服を選んでいると思いますか。	1	2	3	4
Q24	あなたは男性の目を意識して衣服を選んでいると思いますか。	1	2	3	4
Q25	あなたは女性の目を意識して衣服を選んでいると思いますか。	1	2	3	4
Q26	あなたは服装は自己表現の有力な手段であると思いますか。	1	2	3	4
Q27	あなたは他人や周囲の人達と同じような服装をしている方が気持ちが落ち着く方だと思いますか。	1	2	3	4
Q28	あなたは流行のファッションが好きですか。	1	2	3	4
Q29	あなたは身だしなみに気をかけていますか。	1	2	3	4
Q30	あなたはファッションに関する雑誌を購入して読みますか。	1	2	3	4
Q31	あなたは普段着にお金をかける方ですか。	1	2	3	4

表3-2 したことがある事項

Q32	耳のピアス
Q33	髪の毛を染める
Q34	アイラインをひく
Q35	タトゥ(刺青)をする
Q36	流行の靴を履く
Q37	マニキュアをする

表3-3 Q38 外出時に化粧する理由

1	身だしなみだから
2	化粧したほうが自分らしいから
3	素肌に自信がない
4	ファッションに欠かせない
5	化粧しない
6	その他

表3-4 ファンデーションの色目

1	素肌と変わらない色
2	黒め（濃いめ）の色
3	白めの色
4	肌色を修正する
5	ファンデーションをぬらない

表3-5 Q40 肌色を修正する（Q39）に回答した理由

1	赤味を消したい
2	黄味を消したい
3	赤味を加えたい
4	わからない

表3-6 Q41 素肌の美しさを左右する事柄

1	透明感
2	きめの細やかさ
3	つや
4	はり
5	色の白さ
6	わからない

表3-7 魅力的になるために現在気を配っている事柄

Q42	衣服	Q49	アクセサリ-小物
Q43	下着	Q50	素肌の美しさ
Q44	髪的美しさ	Q51	身体の手入れ
Q45	メイクアップ	Q52	ヘアスタイル
Q46	身体のシェイプアップ	Q53	話し方
Q47	動作・立居振舞い	Q54	香り・匂い
Q48	知識・教養	Q55	心の美しさ

表3-8 Q56 電車の中での化粧の経験

1	いつもしている
2	ときどきする
3	ほとんどしない
4	したことがない

表3-9 Q57 電車の中で化粧する理由

1	化粧に最適の時間（空間）だから
2	時間がないから
3	なんとなく
4	他人のことは気にならないから

表3-10 Q58 電車の中で他人の化粧をみての感じ方

1	たいへん気になる
2	やや気になる
3	あまり気にならない
4	まったく気にならない
5	どちらでもない

表3-11 Q59 「美容」の意味

1	身だしなみの一つ
2	自分をきれいに演出するもの
3	肌荒れ等のケア
4	自分で気に入らない顔や身体の部位をカバーするもの

2・5 計算とデータ処理の方法

分析法については、多次元分解表解析の手法として知られる赤池情報量規準 AIC (A kaike's Information Criterion) を用い、最適な分割表モデルの選択を試みた。なお、種々の計算は、京都大学学術情報メディアセンターの汎用サーバー計算機を用いて行った。多次元分割表分析には文部科学省統計数理研究所で開発された CATDAP (A Categori-Cal Data Analysis Program Pakage)³⁾、や要約統計分析には SAS を利用して分析を行った。

3 AIC による分解表モデルの選択についての考え方

社会心理学・被服学および諸研究分野ではしばしば意識調査やパネル調査を実施し、対象者である被験者群の意識動向を把握するために各種の統計的方法を採用し解析することがよく行なわれる。いま表4のように2つ以上の特性(アイテム変数)について、いくつ

表4 分割表(クロス表)

		通 学 区 分		行 計
		1. 自宅	2. 下宿	
家 族 数	1. 3人以下	46	8	54
	2. 4人	208	10	218
	3. 5人以上	209	32	241
列 計		463	50	513

かのカテゴリー(クラス)に分類し、観測度数を求めた(クロス表)によって両特性間の「関連性」を探ることが多い。フィッシャーによる独立性のカイ2乗(χ^2)検定法はこのような当該特性間に「関連性があるか」、もしくは「関連性がないか」という客観的な判断を下すための統計量として広く用いられて来た。しかしながらカイの2乗検定法では、〔1〕サンプル数が増大すればカイ2乗値が大きな値をとる傾向⁴⁾にあり、特性変数の次数やカテゴリー数の増加はどのような尺度を用いても「関連度」の増大をもたらす不合理を招く場合がある。また、特性間が“独立である(関連がない)”とする帰無仮説を棄却するための判断として経験的に採用される有意差の判定基準(たとえば1%とか5%)はそれ自体きわめて恣意的であること。

〔2〕われわれの実施したアンケート調査に即していえば質問項目が100項目にも及び、これらの100項目の質問項目では、ある着目する特性変数1つについて100次元の分割表の作成が必要となる。さらに各特性変数相互間の交互作用効果を探ろうとすると独立性のカイ2乗検定法では不可能なる場合があること。

〔3〕最も重要なことは、ある着目する変数を基準とした2つ以上の分割表を比較するという問題は独立性のカイ2乗検定では不可能であるという点である。〔1〕に関して付言すれば当該データをあつかう専門的・経験的知見を慎重かつ細心に導入しない限り見かけ上のカイ2乗値により「有意差あり」の判断で誤った判断を下すことにもなりかねないという重要な問題がある。

上述した諸問題を解決する統計的方法として赤池情報量規準 AIC (Akaike's Information Criterion) が提案された。⁵⁾

AIC は次式で定義される。

$$AIC = (-2) \log_e M + 2K \dots \dots (1)$$

M : 与えられたデータによるそのモデルの最大尤度 (尤度関数)

K : モデルのなかで自由に变化させることのできるパラメータ数

この AIC の値が低いほど良いモデルであると評価される。通常、最大尤度が大きいほど、モデルは良いとされるが AIC はパラメータ数の項を含むため、パラメータ数の少ないモデルをよりよいものとするという原理が、評価の中に加わっている。二つ以上のモデルの中から AIC 最小のモデルをもつモデルを MAICE (Minimum AIC Estimate) と呼ぶ。

赤池によればカイ2乗検定法は AIC の立場から見ると“ふたつのモデルの比較”といわれる。例えば i, j 変数のカテゴリー数がそれぞれ、 n_1, n_2 からなる分割表間の変数“関連し合っている”とするモデル (有効モデル) と、AIC の立場からみて“関連がない”つまり独立であるとするモデル (無効モデル) は (2) および (3) 式で表わされ、その制約式は (4) 式および (5) 式で与えられる。

$$AIC_1 = (-2) \sum_{i=1}^{n_1} \sum_{j=1}^{n_2} (i, j) \log_2 \{n(i, j)/N\} + 2q \dots \dots (2)$$

$$AIC_0 = (-2) \sum_{i=1}^{n_1} \sum_{j=1}^{n_2} n(i, j) \log_2 \{N(i \cdot) N(\cdot j)/N^2\} + 2q \dots \dots (3)$$

$$\sum_{i=1}^{n_1} \sum_{j=1}^{n_2} p(i, j) = 1 \dots \dots (4)$$

$$\sum_{i=1}^{n_1} p(i \cdot) = 1 \quad \sum_{j=1}^{n_2} p(\cdot j) = 1 \dots \dots (5)$$

ただし $n(i, j)$ は (i, j) なる組合せが観測された頻度、 $P(i, j)$ はその組合せが発生する確率であり、 $N = \sum \sum n(i, j)$ はサンプルの総数をあらわす。また q は自由に動しうるパラメータ ($P(i, j)$) 個数であり、 $N(i \cdot) = \sum n(i, j)$ と $N(\cdot j) = \sum n(i, j)$ はそれぞれ分割表の列計、行計を表わす。このようにして、(4) (5) の制約式のもとで有効モデル (AIC_1) と無効モデル (AIC_0) を計算し、その AIC 値の小さい方のモデルを良いモデルとして採用するのである。つまり $AIC_1 - AIC_0 < 0$ であれば、分割表の特性変数間に“関連あり”とする有効モデルとして採用される。つまり各分割表に対応するモデルの尤度の比較によって確率分布の推定をめざしている。いま AIC_1 (有効モデル) と AIC_0 (無効モデル) をカイ二乗統計量

$$\chi^2 = \sum_{i,j} \{n(i, j) - n(i)n(j)/n\}^2 / \{n(i)n(j)/n\}$$

とすると漸近的につきの関係が成り立つ

$$AIC = AIC_1 - AIC_0 \cong -(\chi^2 - 2 \times d \cdot f)$$

ここに $d \cdot f$ は自由度

このような AIC の統計モデルの比較の方法を実現するための FORTRAN ライブラリ
 ーが CATDAP (A Categorical Data Analysis Program Packag^{6)~9)}) である。

4 結果および考察

4.1 心理調査の結果

性役割志向性尺度 (ISRO) における個人得点の算出は、各被験者の各質問項目の回答
 に対して、前述の採点コード (表 2) に従い得点化する。次いで合計し、各個人の総得点
 とした。

各被験者の個人得点分布は表 5 に示す通りである。

なお、個人得点を 10 点刻みにカテゴリー化し、全体として 5 区分にして、その分布状態
 をみたのが表 6 であり、その散布図を示したのが図 1 である。

Dreyer, N. A. らによる性役割志向性尺度 (ISRO) によると、社会および経済の平等化
 にかかわる態度や意識を考察するための「性役割志向性」を測定する尺度である。この尺

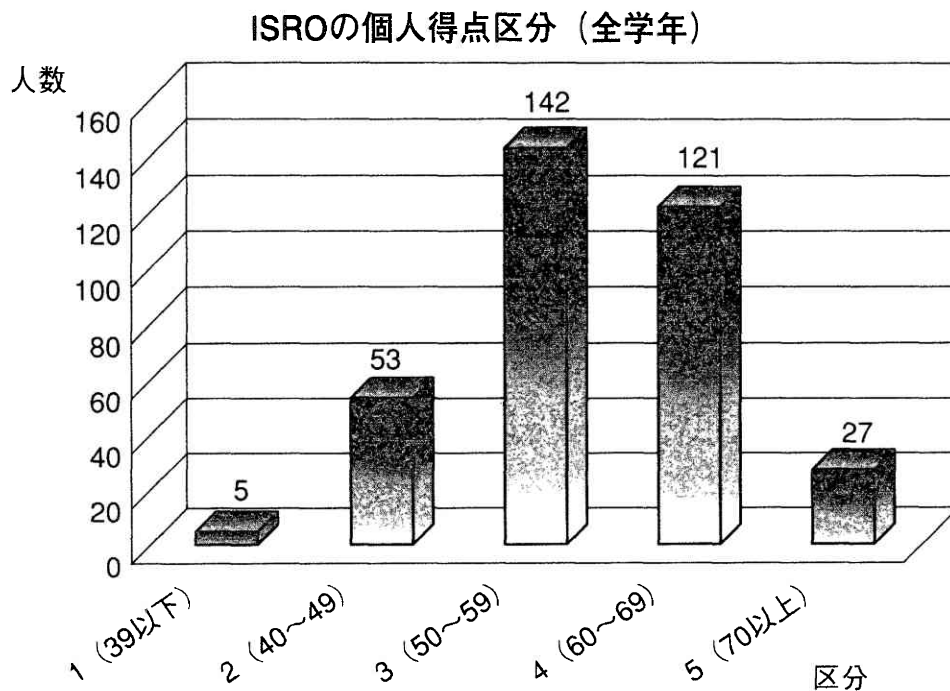


図 1 性役割志向性尺度 (ISRO) の個人得点区分 (全学生)

表5 性役割志向性尺度 (ISRO) の個人得点分布

点数	度数 (人)	頻度 (%)	累積度数 (%)	累積頻度 (%)
33	1	0.3	1	0.3
38	1	0.3	2	0.6
39	3	0.9	5	1.4
40	1	0.3	6	1.7
41	1	0.3	7	2.0
42	1	0.3	8	2.3
43	4	1.1	12	3.4
44	7	2.0	19	5.5
45	6	1.7	25	7.2
46	9	2.6	34	9.8
47	4	1.1	38	10.9
48	6	1.7	44	12.6
49	14	4.0	58	16.7
50	5	1.4	63	18.1
51	12	3.4	75	21.6
52	8	2.3	83	23.9
53	20	5.7	103	29.6
54	16	4.6	119	34.2
55	15	4.3	134	38.5
56	13	3.7	147	42.2
57	25	7.2	172	49.4
58	12	3.4	184	52.9
59	16	4.6	200	57.5
60	15	4.3	215	61.8
61	14	4.0	229	65.8
62	15	4.3	244	70.1
63	12	3.4	256	73.6
64	14	4.0	270	77.6
65	8	2.3	278	79.9
66	16	4.6	294	84.5
67	12	3.4	306	87.9
68	6	1.7	312	89.7
69	9	2.6	321	92.2
70	2	0.6	323	92.8
71	5	1.4	328	94.3
72	3	0.9	331	95.1
73	4	1.1	335	96.3
74	2	0.6	337	96.8
75	3	0.9	340	97.7
76	1	0.3	341	98.0
77	2	0.6	343	98.6
78	2	0.6	345	99.1
79	2	0.6	347	99.7
80	1	0.3	348	100.0

表6 性役割志向性尺度 (ISRO) の個人得点区分

点数	度数(人)	頻度(%)	累積度数 (%)	累積頻度 (%)
39以下	5	1.4	5	1.4
40~49	53	15.2	58	16.7
50~59	142	40.8	200	57.5
60~69	121	34.8	321	92.2
70以上	27	7.8	348	100.0

度においては、合計得点が高いほど現代的で非伝統的なフェミニストとしての性役割志向性が強とされている。

すなわち、フェミニストは、理論上や実践活動面においても社会の変革を求め、政治的、経済的な面での男女平等を提唱する傾向性があるとみられる。

さらに、フェミニストの女性は、家族よりも自分自身を優先させる傾向にあり、自分の職業上や自己の人間的成長の達成を重視していると考えられている。

次に、男女学生の ISRO における性差について調査した結果を表 7～表 11 および図 2 に示す。

今回の調査結果によれば、ISRO の個人得点が 60 点以上の者は短大では 39%、人文女子が 46.4%、社文女子が 52.9% に対し、社文男子：43.9%、人文男子：26.8% となっており、女子学生の場合、女権拡張の意識が高く、自分の職業上での達成を強く志している者は 62 点以上の高得点層の者であり、伝統的な性役割志向の者は 50 点以下の低得点層者とみなされている。以前、

1989 年の調査では、私方の短大生で 60 点以上得点した者は 9.4% と非常に少なく、40 点～49 点の得点者が 38.0% と多く、50 点以下の低得点者は 47.4% と約半数を占めており、(平均得点 50.2 点) 伝統的で保守的(古風)であったといえる。

男子学生について言えば、以前、東京都内での大学生では(早稲田大学の東 清和教授¹⁰⁾による調査)その大半が 50 点を中心として分布しており、60 点台はまれであった。もし、60 点台以上であれば、まれにみるフェミニストといってよいとされている。私方の大学の男子学生は 60 点以上の者がかなりおり、反対に 39 点以下の者は、社文男子：35%、人文男子は皆無であった。(人文女子および社文女子も同様に皆無)。今回の調査では、男子学生のフェミニスト(社文男子：43.9%、人文男子：26.8%)傾向が顕著で時代の変化性が読

表 7 ISRO の個人得点区分(短期大学(女子))

点数	度数(人)	頻度(%)	累積度数(%)	累積頻度(%)
39以下	3	3.0	3	3.0
40～49	14	14.0	17	17.0
50～59	44	44.0	61	61.0
60～69	34	34.0	95	95.0
70以上	5	5.0	100	100.0

表 8 ISRO の個人得点区分(人文科学部(男子))

点数	度数(人)	頻度(%)	累積度数(%)	累積頻度(%)
40～49	9	22.0	9	22.0
50～59	21	51.2	30	73.2
60～69	10	24.4	40	97.6
70以上	1	2.4	41	100.0

表 9 ISRO の個人得点区分(社会文化学部(女子))

点数	度数(人)	頻度(%)	累積度数(%)	累積頻度(%)
40～49	3	5.9	3	5.9
50～59	21	41.2	24	47.1
60～69	25	49.0	49	96.1
70以上	2	3.9	51	100.0

表 10 ISRO の個人得点区分(社会文化学部(男子))

点数	度数(人)	頻度(%)	累積度数(%)	累積頻度(%)
39以下	2	3.5	2	3.5
40～49	13	22.8	15	26.3
50～59	17	29.8	32	56.1
60～69	20	35.1	52	91.2
70以上	5	8.8	57	100.0

表 11 ISRO の個人得点区分(人文科学部(女子))

点数	度数(人)	頻度(%)	累積度数(%)	累積頻度(%)
40～49	14	14.1	14	14.1
50～59	39	39.4	53	53.5
60～69	32	32.3	85	85.9
70以上	14	14.1	99	100.0

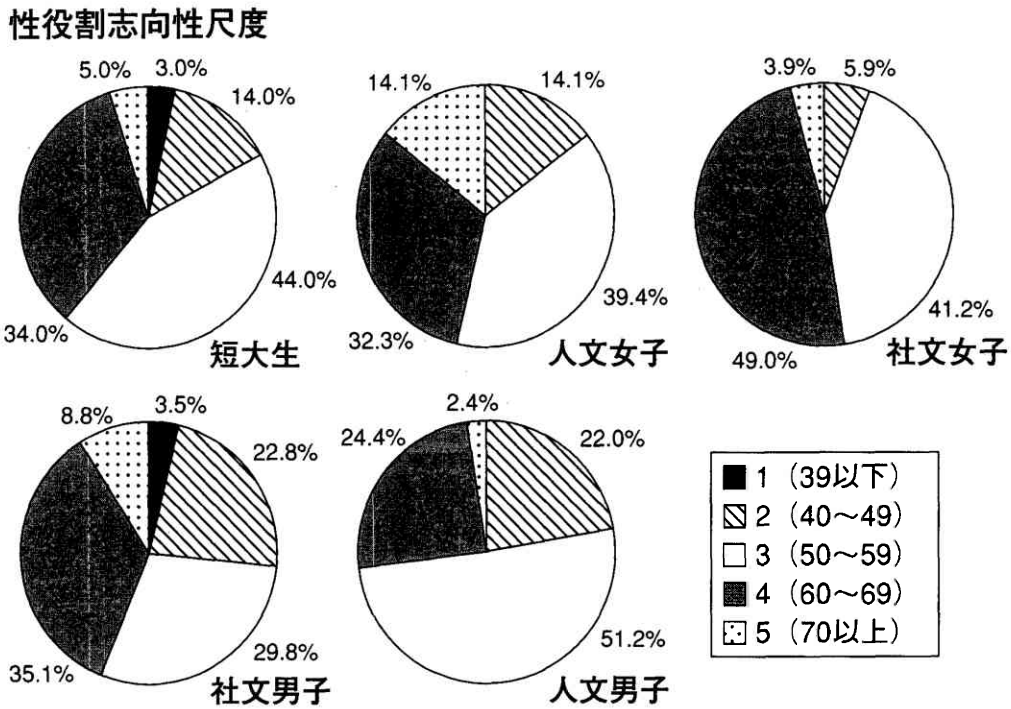


図2 性役割志向性尺度 (ISRO) の得点区分

みとることが出来る。

4・2 ISRO の総得点の平均値の差の検定

クラス分け (短大生：1、人文男子学生：2、社文女子学生：3、社文男子学生：4、人文女子学生：5) によって、ISRO の総得点の平均値の統計的な有意差を検定すれば、表12～表16の通りである。

表12より、短大生と女子大学生では分散は等しく、1%の有意差で女子大学生の得点平均値が高い。表13より、女子学生と男子学生では分散は等しく、平均得点は男子大学生に比

表12 ISRO 総得点の平均値の差の検定

VARIABLE: ISRO

A2Q1	N	MEAN	STD DEV	STD ERROR	MINIMUM	MAXIMUM
1	100	57.15000000	8.12326127	0.81232613	33.00000000	75.00000000
2	150	59.86666667	8.08484095	0.66012450	43.00000000	80.00000000

VARIANCES	T	DF	PROB>!T!
UNEQUAL	-2.5954	211.6	0.0101
EQUAL	-2.5979	248.0	0.0099

FOR H0: VARIANCES ARE EQUAL, F' = 1.01 DF = (99,149) PROB>F' = 0.9490

短大生：1 女子大学生：2

表13 ISRO 総得点の平均値の差の検定

VARIABLE: ISRO

A2Q1	N	MEAN	STD DEV	STD ERROR	MINIMUM	MAXIMUM
8	250	58.78000000	8.19317475	0.51818187	33.00000000	80.00000000
9	98	56.19387755	8.66877102	0.87567811	39.00000000	78.00000000

VARIANCES	T	DF	PROB>!T!
UNEQUAL	2.5416	168.8	0.0119
EQUAL	2.6052	346.0	0.0096

FOR H0: VARIANCES ARE EQUAL, F' = 1.12 DF = (97,249) PROB>F' = 0.4865
 女子大生: 8 男子大生: 9

表14 ISRO 総得点の平均値の差の検定

VARIABLE: ISRO

A2Q1	N	MEAN	STD DEV	STD ERROR	MINIMUM	MAXIMUM
1	100	57.15000000	8.12326127	0.81232613	33.00000000	75.00000000
2	248	58.41532258	8.49582459	0.53948540	39.00000000	80.00000000

VARIANCES	T	DF	PROB>!T!
UNEQUAL	-1.2976	190.7	0.1960
EQUAL	-1.2730	346.0	0.2039

FOR H0: VARIANCES ARE EQUAL, F' = 1.09 DF = (247,99) PROB>F' = 0.6137
 短大生: 1 大学生(男子・女子): 2

表15 ISRO 総得点の平均値の差の検定

VARIABLE: ISRO

A2Q1	N	MEAN	STD DEV	STD ERROR	MINIMUM	MAXIMUM
1	100	57.15000000	8.12326127	0.81232613	33.00000000	75.00000000
2	98	56.19387755	8.66877102	0.87567811	39.00000000	78.00000000

VARIANCES	T	DF	PROB>!T!
UNEQUAL	0.8005	194.6	0.4244
EQUAL	0.8010	196.0	0.4241

FOR H0: VARIANCES ARE EQUAL, F' = 1.14 DF = (97,99) PROB>F' = 0.5206
 男子大生: 1 女子大生: 2

表16 ISRO 総得点の平均値の差の検定

VARIABLE: ISRO

A2Q1	N	MEAN	STD DEV	STD ERROR	MINIMUM	MAXIMUM
1	100	57.15000000	8.12326127	0.81232613	33.00000000	75.00000000
2	98	56.19387755	8.66877102	0.87567811	39.00000000	78.00000000

VARIANCES	T	DF	PROB>!T!
UNEQUAL	0.8005	194.6	0.4244
EQUAL	0.8010	196.0	0.4241

FOR H0: VARIANCES ARE EQUAL, F' = 1.14 DF = (97,99) PROB>F' = 0.5206
 短大生: 1 女子大生: 2

べ女子学生平均得点が1%有意差で高い。表14より、短大生と大学生（男子、女子）では分散は等しいといえるが両群の平均値に差があるとはいえない。表16より、短大生と男子学生では分散は異なるとはいえない。なお、平均値についても差があるとは判定できない。

以上の結果より、大学生（男子）と女学生（女子）とを比較すれば高い水準（0.1%）で女子大生の平均値は高く、短大生を含めても女子大生の方が男子学生よりも1%有意差で平均得点が高い。また、短大生では1%の有意差で女子大生よりも得点平均値が低く、男子学生とは平均値に差が認められず、女子大生の方がフェミニストであるといえよう。

4・3 心理テストとアンケートII

ISRO（5段階に得点別のカテゴリー化を行った：Q61ISRO）を着目変数として、服装や化粧観に関する43項目（アンケートIIの素項目）を説明変数とし、関連性を把握するためにCATDAPによる分析を行い、AICの値を算出した。

いま、(1)女子大学生(2)短期大学生(3)女子学生（女子大学生、短期大学生）(4)男子大学生(5)全学生〔大学生（男女）、短期大学生〕の各クラス別に各々AIC値を算出し、各クラス(Q60)ごとの学生の傾向や動向を検討する。

(1) 女子大学生の場合

女子大学生のISRO（カテゴリー化を行った）を着目変数とし、服装や化粧観に関する43項目を説明変数とした場合の多次元分割表間の比較結果を表17、および図3に示す。

表17

	(説明変数)	カテゴリー数	AIC値	AICの差
1	Q28A2Q2_12	4	-9.36	0.00
2	Q24A2Q2_8	4	-5.44	3.92
3	Q54A2Q4F13	2	1.28	6.72
4	Q25A2Q2_9	4	1.56	0.28
5	Q36 A2Q3F5	2	1.65	0.10
6	Q33 A2Q3F2	2	2.16	0.51
7	Q34 A2Q3F3	2	2.49	0.32
8	Q26A2Q2_10	4	2.50	0.01
9	Q43A2Q4F_2	2	2.52	0.02
10	Q47A2Q4F_6	2	2.87	0.35
11	Q49A2Q4F_8	2	3.01	0.14
12	Q53A2Q4F12	2	3.07	0.06
13	Q42A2Q4F_1	2	3.12	0.05
14	Q37 A2Q3F6	2	3.26	0.14
15	Q45A2Q4F_4	2	3.36	0.09
16	Q51A2Q4F10	2	3.43	0.07
17	Q46A2Q4F_5	2	4.02	0.59
18	Q55A2Q4F14	2	4.22	0.20
19	Q35 A2Q3F4	2	4.54	0.33
20	Q44A2Q4F_3	2	5.48	0.94
21	Q52A2Q4F11	2	5.97	0.49
22	Q19A2Q2_3	4	5.98	0.01
23	Q48A2Q4F_7	2	6.07	0.09
24	Q56 A2Q4_5	5	6.97	0.90
25	Q27A2Q2_11	4	6.99	0.02
26	Q32 A2Q3F1	2	7.03	0.04
27	Q50A2Q4F_9	2	7.79	0.76
28	Q20A2Q2_4	4	11.09	3.30
29	Q21A2Q2_5	4	14.73	3.64
30	Q38 A2Q4_1	6	16.52	1.79
31	Q23A2Q2_7	4	17.56	1.04
32	Q29A2Q2_13	4	18.67	1.11
33	Q59 A2Q4_8	5	18.91	0.24
34	Q22A2Q2_6	4	19.59	0.67
35	Q58 A2Q4_7	6	25.73	6.15

表17は、ISRO に対する説明変数の AIC 値を表17と対応させるために小さい順にならべたものであり、AIC 値が小さい（負の値）ほど情報量の多い（関連の強い）ことを表わす。

図3は、表17の着目変数に対する説明変数の AIC 値の大小を一目でみられるように数字で表現したものであり、1～4の大きい数字の箇所に対応する変数同士ほど関連が強く、0の箇所は、その欄に対応する変数同士が AIC の立場からみて独立（無関係）であることを示している。

この分析結果から、ISRO の着目変数に対しては、設問項目 Q28（あなたは流行のファッションが好きですか）が最も関連度の強い説明変数となり、次いで Q24（あなたは男性の目を意識して衣服を選んでいると思いますか）が続き、説明変数43項目中2項目と関連性があることがわかった。

次に、この分析により出力される関連性の強さの順位に対する分割表（表18）から関連性をみれば、興味ある情報が得られる。

そこで、ISRO に対して関連度の強い順に分割表（表18）について検討してみる。

ここで、設問の「そう思う」、「ややそう思う」を肯定派、「ややそう思わない」、「そう思わない」を否定派として表わし、検討を行う。以下同称である。

項目 Q28（あなたは流行のファッションが好きですか）に対しては、肯定派が82名（全

GRAY SHADING DISPLAY OF ALL THE AIC'S

RESPONSE VARIABLES

```

QQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQ
12222222222233333333444444445555555555
90123456789234567823456789012345689
AAAAAAAAAAAAA AAAAAAAAAAAAAA
222222222222AAAAAA222222222222AAA
QQQQQQQQQQQQ22222222QQQQQQQQQQQQ222
222222222222QQQQQQ4444444444444444QQQ
3333334FFFFFFFFFFFFFFFF444
EXPLANATORY 3456789111111111111111
VARIABLES 0123123456112345678901234578
(Q61 ISRO ) 00000200030000000000000000000000000000
    
```

< N O T E >

4 :	AIC/NSAMP <	-0.100
3 :	-0.100 < AIC/NSAMP <	-0.050
2 :	-0.050 < AIC/NSAMP <	-0.010
1 :	-0.010 < AIC/NSAMP <	0.000
0 :	0.000 < AIC/NSAMP	

図3

表18

(Q61 ISRO)		(Q61 ISRO)	
1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 TOTAL	
(Q28A2Q2_12)		(Q28A2Q2_12)	
1 0 3 7 6 1 17		1 0.0 17.6 41.2 35.3 5.9 100.0 17	
2 0 2 38 23 2 65		2 0.0 3.1 58.5 35.4 3.1 100.0 65	
3 0 9 13 21 7 50		3 0.0 18.0 26.0 42.0 14.0 100.0 50	
4 0 3 2 7 6 18		4 0.0 16.7 11.1 38.9 33.3 100.0 18	
TOTAL 0 17 60 57 16 150		TOTAL 0.0 11.3 40.0 38.0 10.7 100.0 150	
1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 TOTAL	
(Q24A2Q2_8)		(Q24A2Q2_8)	
1 0 2 2 2 0 6		1 0.0 33.3 33.3 33.3 0.0 100.0 6	
2 0 1 16 15 3 35		2 0.0 2.9 45.7 42.9 8.6 100.0 35	
3 0 5 29 28 1 63		3 0.0 7.9 46.0 44.4 1.6 100.0 63	
4 0 9 13 12 12 46		4 0.0 19.6 28.3 26.1 26.1 100.0 46	
TOTAL 0 17 60 57 16 150		TOTAL 0.0 11.3 40.0 38.0 10.7 100.0 150	

体の54.7%)と半数以上を占めている。肯定派82名中45名(54.9%)と一番流行のファッションを好んでいるのは、ISROのカテゴリー区分がカテゴリー3(50~59点)に属する者であり、反対に、否定派では、68名中28名(41.2%)のISROがカテゴリー4(60~69点)に属している。

項目Q24(あなたは男性の目を意識して衣服を選んでいると思いますか)に対しては、否定派が109名(全体の72.7%)と多数であり、その中38.5%はISROのカテゴリー区分がカテゴリー3(50~59点)に属し、次いで36.7%はISROがカテゴリー4(60~69点)の者である。また、否定する比率が最も高いのはISROのカテゴリー2(40~49点)での82.4%(17人中14人)であるが、次いでカテゴリー5(70点以上)の81.3%(16人中13人)、カテゴリー4の70.2%、カテゴリー3の70.0%となっている。異性の目を否定する比率は、フェミニストとしての性役割志向性が強くなる程高くなるとはいえない結果となった。

CATDAPでは、着目変数に対して説明変数を2変数、3変数と順次増加させた場合のAIC値も出力されるが、このすべての組合せにおいて関連性が認められなかった。

次に、CATDAPで出力される最適な変数の組合せについてみれば、女子大学生においては、5段階にカテゴリー化したISROを着目変数とした場合の最適組合せに対応する2次元分割表(表19)から、ISRO×Q28の2変数の組合せが、ISRO(カテゴリー化を行った)との関連性における最適の組合せに選択されている。

表19

CONTINGENCY TABLE WITH THE OPTIMAL COMBINATION OF EXPLANATORY VARIABLES

X(1):Q61 ISRO

X(2):Q28A2Q2_12

X — 2 —	RESPONSE VARIABLE						
	X(1)	1	2	3	4	5	
1		0	3	7	6	1	17
2		0	2	38	23	2	65
3		0	9	13	21	7	50
4		0	3	2	7	6	18
TOTAL		0	17	60	57	16	150

X(1)	1	2	3	4	5	
1	0.0	17.6	41.2	35.3	5.9	100.0
2	0.0	3.1	58.5	35.4	3.1	100.0
3	0.0	18.0	26.0	42.0	14.0	100.0
4	0.0	16.7	11.1	38.9	33.3	100.0
TOTAL	0.0	11.3	40.0	38.0	10.7	100.0

この最適組合せの2次元分割表(表19)(上段が頻度表、下段が百分率で示した表)について検討してみると、流行のファッション嗜好傾向の者は54.7%(150名中82名)と半数以上であり、ISROのカテゴリー3では60名中45名(75.0%)が嗜好傾向で、嗜好する比率が最も高い。逆に、否定する比率では、カテゴリー5(81.3%、16名中13名)で最も高く、次いでカテゴリー2(70.6%、17名中12名)が高い。カテゴリー4では嗜好・否定の両極端の意見に分れている。ISROが70点以上のより進歩的なフェミニストと50点以下の伝統的な女子大学生は、ともに流行のファッションを好まない傾向が分割表から読み取れる。流行のファッションを好まない者は、流行に積極的な否定派であるのか、または、流行に無頓着なのであろうか、興味深い。

(2) 短期大学生の場合

短期大学生のISRO(カテゴリー化を行った)を着目変数とし、服装や化粧観に関する43項目を説明変数とした場合の多次元分割表間の比較結果を表20に示す。

表20により、短期大学生のISRO(カテゴリー化を行った)と説明変数すべての項目との間には関連性は認められず独立(無関連)と見なされる結果となった。

我々の以前(1989年)の調査¹¹⁾では、ISRO(カテゴリー化を行った)と関連のある説明変数として選択されたのは、和服に関する説明変数(「成人式には振袖よりも個性的な洋服を着たいと思いますか」、「成人式には振袖を着たいと思いますか」)などであった。その分析結果によると「和服(特に振袖)イコール伝統的・保守型」という傾向を示していた。つまり、例えば、成人式には大部分(85.6%、280名)が振袖を着たいと思っており、伝統的・保守型になる程肯定する比率は高く、反対に、フェミニストの程度が強くなる程否定する(振袖を着たくない)比率は高かった。

今回の調査では、短期大学生においても、ISROの個人得点が50点以下の伝統的・保守型は17.0%(47.4%:1988年の調査)と減少し、60点以上のフェミニストが39.0%(9.4%:1988年)と大幅に増加している。そのために、和服に関する設問項目が今回もあるものの、ISRO(カテゴリー化した)に対しては、関連性のある説明変数が皆無であったと考えられる。

表20

	(説明変数)	カテゴリー数	AIC値	AICの差
1	Q44A2Q4F_3	2	1.00	0.00
2	Q36 A2Q3F5	2	2.30	1.30
3	Q45A2Q4F_4	2	2.93	0.63
4	Q52A2Q4F11	2	3.20	0.27
5	Q26A2Q2_10	4	3.64	0.44
6	Q50A2Q4F_9	2	4.37	0.73
7	Q35 A2Q3F4	2	4.47	0.10
8	Q53A2Q4F12	2	4.65	0.18

以下省略

(3) 女子学生（女子大学生、短期大学生）の場合

女子学生（女子大学生と短期大学生との合同）のISRO（カテゴリー化を行った）を着目変数とし、服装や化粧観に関する43項目を説明変数とした場合の多次元分割表間の比較結果を表21および図4に示す。

表21

	(説明変数)	カテゴリー数	AIC値	AICの差
1	Q28A2Q2_12	4	-10.53	0.00
2	Q26A2Q2_10	4	-10.45	0.08
3	Q24A2Q2_8	4	-8.63	1.82
4	Q36 A2Q3F5	2	-4.36	4.27
5	Q42A2Q4F_1	2	-0.53	3.83
6	Q59 A2Q4_8	5	-0.44	0.09
7	Q27A2Q2_11	4	-0.43	0.00
8	Q54A2Q4F13	2	0.00	0.43
9	Q33 A2Q3F2	2	0.72	0.72
10	Q45A2Q4F_4	2	1.10	0.38
11	Q47A2Q4F_6	2	1.60	0.50

以下省略

ISRO（カテゴリー化した）を着目変数とした場合は、表21のAIC値から設問項目Q28（流行のファッションが好きですか）と最も関連性が強く、Q26（服装は自己表現の有力な手段であると思えますか）、Q24（男性の目を意識して衣服を選んでいると思えますか）、Q36（流行の靴を履いたことがある）、Q42（魅力的になるために衣服に現在気を配っている）、Q59（あなたにとって「美容」とは何か）、Q27（他人や周囲の人達と同じような服装をして

```

GRAY SHADING DISPLAY OF ALL THE AIC'S

RESPONSE VARIABLES
QQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQ
12222222222233333333444444445555555555
90123456789234567823456789012345689
AAAAAAAAAAAA AAAAAAAAAAAAAA
222222222222AAAAAA22222222222222AAA
QQQQQQQQQQQQ22222222QQQQQQQQQQQQ222
222222222222QQQQQQ4444444444444444QQQ
3333334FFFFFFFFFFF4444
EXPLANATORY 34567891111FFFFF 11111
VARIABLES    0123123456112345678901234578
(Q61 ISRO ) 0000020212000002001000000000010001
    
```

< N O T E >

4 :	AIC/NSAMP <	-0.100
3 :	-0.100 < AIC/NSAMP <	-0.050
2 :	-0.050 < AIC/NSAMP <	-0.010
1 :	-0.010 < AIC/NSAMP <	0.000
0 :	0.000 < AIC/NSAMP	

図4

いる方が気持ち落ちつく方だと思いますか)の順に着目変数に対する関連性がみられる。

この分析により出力される関連性の強さの順位に対応する分割表（表22）から関連性を考察すれば次のような因果関係が判明した。

つまり、Q28（流行のファッションが好きですか）に対しては、62.4%（250名中156名）と60%以上が流行のファッション嗜好傾向であり、比率からみれば、ISROのカテゴリー1、カテゴリー3、カテゴリー4に嗜好者が多い。逆に、カテゴリー5のより進歩的

本学学生の性役割志向性と被服行動との関連性について

表22

(Q61 ISRO)						(Q61 ISRO)								
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	TOTAL			
(Q28A2Q2_12)						(Q28A2Q2_12)								
1	1	5	23	16	2	47	1	2.1	10.6	48.9	34.0	4.3	100.0	47
2	1	10	57	38	3	109	2	0.9	9.2	52.3	34.9	2.8	100.0	109
3	1	13	21	25	8	68	3	1.5	19.1	30.9	36.8	11.8	100.0	68
4	0	3	3	12	8	26	4	0.0	11.5	11.5	46.2	30.8	100.0	26
TOTAL	3	31	104	91	21	250	TOTAL	1.2	12.4	41.6	36.4	8.4	100.0	250
(Q26A2Q2_10)						(Q26A2Q2_10)								
1	2	4	27	34	10	77	1	2.6	5.2	35.1	44.2	13.0	100.0	77
2	1	12	57	46	5	121	2	0.8	9.9	47.1	38.0	4.1	100.0	121
3	0	11	18	9	2	40	3	0.0	27.5	45.0	22.5	5.0	100.0	40
4	0	4	2	2	4	12	4	0.0	33.3	16.7	16.7	33.3	100.0	12
TOTAL	3	31	104	91	21	250	TOTAL	1.2	12.4	41.6	36.4	8.4	100.0	250
(Q24A2Q2_8)						(Q24A2Q2_8)								
1	1	3	6	3	0	13	1	7.7	23.1	46.2	23.1	0.0	100.0	13
2	2	4	27	27	4	64	2	3.1	6.3	42.2	42.2	6.3	100.0	64
3	0	13	51	40	2	106	3	0.0	12.3	48.1	37.7	1.9	100.0	106
4	0	11	20	21	15	67	4	0.0	16.4	29.9	31.3	22.4	100.0	67
TOTAL	3	31	104	91	21	250	TOTAL	1.2	12.4	41.6	36.4	8.4	100.0	250
(Q36 A2Q3F5)						(Q36 A2Q3F5)								
1	2	24	84	55	12	177	1	1.1	13.6	47.5	31.1	6.8	100.0	177
2	1	7	20	36	9	73	2	1.4	9.6	27.4	49.3	12.3	100.0	73
TOTAL	3	31	104	91	21	250	TOTAL	1.2	12.4	41.6	36.4	8.4	100.0	250
(Q42A2Q4F_1)						(Q42A2Q4F_1)								
1	3	21	84	64	11	183	1	1.6	11.5	45.9	35.0	6.0	100.0	183
2	0	10	20	27	10	67	2	0.0	14.9	29.9	40.3	14.9	100.0	67
TOTAL	3	31	104	91	21	250	TOTAL	1.2	12.4	41.6	36.4	8.4	100.0	250
(Q59 A2Q4_8)						(Q59 A2Q4_8)								
1	0	15	23	19	3	60	1	0.0	25.0	38.3	31.7	5.0	100.0	60
2	1	11	57	44	11	124	2	0.8	8.9	46.0	35.5	8.9	100.0	124
3	0	1	13	16	7	37	3	0.0	2.7	35.1	43.2	18.9	100.0	37
4	2	1	9	4	0	16	4	12.5	6.3	56.3	25.0	0.0	100.0	16
5	0	3	2	8	0	13	5	0.0	23.1	15.4	61.5	0.0	100.0	13
TOTAL	3	31	104	91	21	250	TOTAL	1.2	12.4	41.6	36.4	8.4	100.0	250
(Q27A2Q2_11)						(Q27A2Q2_11)								
1	1	3	10	5	0	19	1	5.3	15.8	52.6	26.3	0.0	100.0	19
2	2	14	44	33	2	95	2	2.1	14.7	46.3	34.7	2.1	100.0	95
3	0	10	38	36	8	92	3	0.0	10.9	41.3	39.1	8.7	100.0	92
4	0	4	12	17	11	44	4	0.0	9.1	27.3	38.6	25.0	100.0	44
TOTAL	3	31	104	91	21	250	TOTAL	1.2	12.4	41.6	36.4	8.4	100.0	250

なフェミニストでは否定派が76.2% (21名中16名) と否定する比率が最も高く、カテゴリーー2 (伝統的・保守型) の意見は嗜好・否定の両極端に分れている。

Q26 (服装は自己表現の有力な手段であると思いますか) では、肯定派が198名 (全体の79.2%) と8割の者が占め、ISROのカテゴリーー1、カテゴリーー3、カテゴリーー4、カテゴリーー5では肯定する比率が相当高い。肯定・否定の両極端の意見に分れているのはカテゴリーー2の伝統的・保守型の者である。

Q24（男性の目を意識して衣服を選んでいると思いますか）では、否定派が69.2%（173名）と相当多く、ISROのカテゴリー1（より伝統的・保守型）を除き、他のカテゴリー区分では否定する比率が高く、カテゴリー5（フェミニストとしての性役割志向性が強い）では、否定する比率が最も高くなっている。

Q36（流行の靴を履いたことがある）では、70.8%（177名）の者が流行の靴を履いており、その比率が最も高いのはISROのカテゴリー3であり（80.8%：104名中84名）、比率の最低はカテゴリー5（57.1%）であった。

Q42（魅力的になるために衣服に現在気を配っている）では、73.2%（183名）の者が衣服に気を配っており、ISROのカテゴリー1～4においてその比率が高い。カテゴリー5では、肯定・否定の両極端の傾向が認められる。

Q59（あなたにとって「美容」とは何か）では、「自分をきれいに演出するもの」と答えた者が124名（全体の49.6%）と半数近く、その124名中57名（46.0%）がISROのカテゴリー3に属し、44名（35.5%）がカテゴリー4に属している。次いで「身だしなみの一つ」とした者が60名（全体の24.0%）と多く、60名中23名（38.3%）はカテゴリー3、19名（31.7%）はカテゴリー4の者であった。

Q27（他人や周囲の人達と同じような服装をしている方が気持ちが落ちつく方だと思いますか）に対しては、否定派が54.4%（136名）と約半数を占め、否定する比率はフェミニストとしての性役割志向性が強くなる程高くなり、反対に肯定する比率は保守型になる程高い。中間層（カテゴリー3）の意見は肯定・否定の両極端に分れている。

次に、着目変数に対して説明変数を2変数、3変数と順次増加させた場合のAIC値においては、すべての組合せにおいて関連性は認められなかった。

最適な変数の組合せについていえば、女子学生（女子大学生と短期大学生との合同）の場合では、ISRO（カテゴリー化した）を着目変数とした場合の最適組合せに対応する2次元分割表（表23）から、ISRO×Q28の組合せがISRO（カテゴリー化した）を説明する最適の組合せである。

表23より、流行のファッション嗜好傾向の者は62.4%（250名中156名）であり、ISROのカテゴリー3では76.9%（104名中80名）と嗜好する比率が最も高くなっている。逆に、否定する比率の最高は、カテゴリー5（フェミニストの性役割志向性が強い）の76.2%（21名中16名）であった。以上の分析結果は、女子大学生の場合とほとんど同じ傾向を示している。

表23

CONTINGENCY TABLE WITH THE OPTIMAL COMBINATION OF EXPLANATORY VARIABLES

X(1):061 ISRO X(2):Q2BA2Q2_12

X	RESPONSE VARIABLE					
	1	2	3	4	5	
1	1	5	23	16	2	47
2	1	10	57	38	3	109
3	1	13	21	25	8	68
4	0	3	3	12	8	26
TOTAL	3	31	104	91	21	250

X(1)	1	2	3	4	5	
1	2.1	10.6	48.9	34.0	4.3	100.0
2	0.9	9.2	52.3	34.9	2.8	100.0
3	1.5	19.1	30.9	36.8	11.8	100.0
4	0.0	11.5	11.5	46.2	30.8	100.0
TOTAL	1.2	12.4	41.6	36.4	8.4	100.0

(4) 男子大学生の場合

男子大学生のISRO（カテゴリー化を行った）を着目変数とし、服装や化粧観に関する43項目を説明変数とした場合の多次元分割表間の比較結果を表24および図5に示す。

表24

	(説明変数)	カテゴリー数	AIC値	AICの差
1	Q49A2Q4F_8	2	-1.56	0.00
2	Q22A2Q2_6	4	1.79	3.36
3	Q32 A2Q3F1	2	2.02	0.23
4	Q27A2Q2_11	4	2.22	0.20
5	Q36 A2Q3F5	2	2.63	0.41
6	Q42A2Q4F_1	2	3.07	0.44
7	Q43A2Q4F_2	2	3.51	0.44
8	Q37 A2Q3F6	2	3.60	0.09

以下省略

GRAY SHADING DISPLAY OF ALL THE AIC'S

RESPONSE VARIABLES

```

QQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQ
12222222222222223333333333444444444455555555
901234567892345678234567823456789012345689
AAAAAAAAAAAA  AAAAAAAAAAAAAA
222222222222AAAAA22222222222222AAAA
QQQQQQQQQQQQ22222222QQQQQQQQQQQQQQ222
222222222222QQQQQQ44444444444444444444QQ
3333334FFFFFFFFFFF444
    
```

```

EXPLANATORY          34567891111111111111111111111111
VARIABLES            0123123456112345678901234578
(Q61 ISRO ) 000000000000000000000000000000000000
    
```

ISRO を着目変数とした場合は、表24の AIC 値から設問項目 Q 49（魅力的になるために現在「アクセサリー小物」に気を配っている）の説明変数とのみ関連性が認められる。この項目の分割表（表25）からその関連性を考察すると次の通りである。

「アクセサリー小物」に気を配って魅力的になろうとしている男子学生は20名（全体の20.4%）にしかすぎず、その内 ISRO のカ

< N O T E >

4 :	AIC/NSAMP <	-0.100
3 :	-0.100 < AIC/NSAMP <	-0.050
2 :	-0.050 < AIC/NSAMP <	-0.010
1 :	-0.010 < AIC/NSAMP <	0.000
0 :	0.000 < AIC/NSAMP	

図5

表25

(Q61 ISRO)						(Q61 ISRO)								
	1	2	3	4	5		1	2	3	4	5	TOTAL		
(Q49A2Q4F_8)						(Q49A2Q4F_8)								
1	1	7	7	2	3	20	1	5.0	35.0	35.0	10.0	15.0	100.0	20
2	1	15	31	28	3	78	2	1.3	19.2	39.7	35.9	3.8	100.0	78
TOTAL	2	22	38	30	6	98	TOTAL	2.0	22.4	38.8	30.6	6.1	100.0	98
	1	2	3	4	5		1	2	3	4	5	TOTAL		

テゴリー 2 およびカテゴリー 3 に各々 35.0% ずつの男子学生がみられる。反対に「アクセサリー小物」に気を配っていない学生は 78 名（全体の 79.6%）で多数を占める。その内 31 名（39.7%）がカテゴリー 3 に、28 名（35.9%）がカテゴリー 4 に属している。

次に、着目変数に対して説明変数を 2 変数、3 変数と順次増加させた場合の AIC 値は、すべての組合せにおいて関連性はみられなかった。

最適な変数の組合せでは、男子大学生においては、ISRO（カテゴリー化した）を着目変数とした場合の最適組合せに対応する 2 次元分割表（表 26）から、ISRO×Q49 の 2 変数の組合せが最適の組合せであることがわかる。

魅力的になるために「アクセサリー小物」に気を配っている男子大学生は 20.4%（98 名

表26

CONTINGENCY TABLE WITH THE OPTIMAL COMBINATION OF EXPLANATORY VARIABLES

X(1):Q61 ISRO

X(2):Q49A2Q4F_8

X	RESPONSE VARIABLE						
	X(1)	1	2	3	4	5	
1		1	7	7	2	3	20
2		1	15	31	28	3	78
TOTAL		2	22	38	30	6	98

X	RESPONSE VARIABLE						
	X(1)	1	2	3	4	5	
1		5.0	35.0	35.0	10.0	15.0	100.0
2		1.3	19.2	39.7	35.9	3.8	100.0
TOTAL		2.0	22.4	38.8	30.6	6.1	100.0

中20名)とかなり少ない。逆に、否定派は79.6%と多数であり、否定する比率が高いのは、ISROのカテゴリー4(93.3%、30名中28名)、カテゴリー3(81.6%、38名中31名)、カテゴリー2(68.2%、22名中15名)の順である。カテゴリー1(保守型の傾向が強い)およびカテゴリー5(フェミニストの傾向が強い)では、肯定・否定の両極端の意見に分れている。「アクセサリー小物」でおしゃれをしている男子大学生がISROのすべてのカテゴリーにわずかながらもみられ、時代の変化が感じられる。

(5) 全学生〔大学生(男女)、短期大学生〕の場合

全学生のISRO(カテゴリー化を行った)を着目変数とし、服装や化粧観に関する43項目を説明変数とした場合の多次元分割表間の比較結果を表27および図6に示す。

表27

	(説明変数)	カテゴリー数	AIC値	AICの差
1	Q24A2Q2_8	4	-12.52	0.00
2	Q27A2Q2_11	4	-8.51	4.01
3	Q28A2Q2_12	4	-7.56	0.94
4	Q25A2Q2_10	4	-6.49	1.07
5	Q56 A2Q4_5	5	-5.72	0.77
6	Q36 A2Q3F5	2	-4.18	1.54
7	Q32 A2Q3F1	2	-0.56	3.63
8	Q42A2Q4F_1	2	-0.38	0.17
9	Q25A2Q2_9	4	0.00	0.39
10	Q49A2Q4F_8	2	0.72	0.72
11	Q22A2Q2_6	4	1.74	1.02

以下省略

ISROの着目変数に対しては、設問項目Q24(男性の目を意識して衣服を選んでいると思いますか)が最も関連性が強く、次いでQ27(他人や周囲の人達と同じような服装をしている方が気持ちが落ち着く方だと思いますか)、Q28(流行のファッションが好きですか)、Q25(女性の目を意識して衣服を選んでいると思いますか)、Q56(電車の中で化粧をした経験はありますか)、Q36(流行の靴を履いたことがある)、Q32(耳のピアスをしたことがある)、Q42(魅力的になるために衣服に現在気を配っている)の順に説明変数8項目と関連性がある。

この分析により出力される関連性の強さの順位に対応する分割表(表28)から関連性をみれば次のようである。

```

GRAY SHADING DISPLAY OF ALL THE AIC'S

RESPONSE VARIABLES
QQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQQ
1222222222233333344444444445555555556
901234557892345678234567890123456890
AAAAAAAAAAAA AAAAAAAAAAAAAA
22222222222AAAAAAAAA2222222222222AAAC
QQQQQQQQQQQ222222QQQQQQQQQQQQQQ222L
22222222222QQQQQQ44444444444444444444444444444444
3333334FFFFFFFFFFFFFFFFFFFF444S
EXPLANATORY 345678911111FFFFFF11111S
VARIABLES    0123123456112345678901234578

(Q61 ISRO ) 00000202220100020010000000000002000
    
```

< N O T E >

4 :	AIC/NSAMP <	-0.100
3 :	-0.100 < AIC/NSAMP <	-0.050
2 :	-0.050 < AIC/NSAMP <	-0.010
1 :	-0.010 < AIC/NSAMP <	0.000
0 :	0.000 < AIC/NSAMP	

図 6

本学学生の性役割志向性と被服行動との関連性について

表28

(Q61 ISRO)						(Q61 ISRO)								
	1	2	3	4	5		1	2	3	4	5	TOTAL		
(Q24A2Q2_8)						(Q24A2Q2_8)								
1	1	5	8	3	1	18	1	5.6	27.8	44.4	16.7	5.6	100.0	18
2	2	8	38	32	4	84	2	2.4	9.5	45.2	38.1	4.8	100.0	84
3	2	21	71	56	4	154	3	1.3	13.6	46.1	36.4	2.6	100.0	154
4	0	19	25	30	18	92	4	0.0	20.7	27.2	32.6	19.6	100.0	92
TOTAL	5	53	142	121	27	348	TOTAL	1.4	15.2	40.8	34.8	7.8	100.0	348
	1	2	3	4	5			1	2	3	4	5	TOTAL	
(Q27A2Q2_11)						(Q27A2Q2_11)								
1	1	5	13	7	1	27	1	3.7	18.5	48.1	25.9	3.7	100.0	27
2	3	23	56	39	3	124	2	2.4	18.5	45.2	31.5	2.4	100.0	124
3	1	14	59	45	10	129	3	0.8	10.9	45.7	34.9	7.8	100.0	129
4	0	11	14	30	13	68	4	0.0	16.2	20.6	44.1	19.1	100.0	68
TOTAL	5	53	142	121	27	348	TOTAL	1.4	15.2	40.8	34.8	7.8	100.0	348
	1	2	3	4	5			1	2	3	4	5	TOTAL	
(Q28A2Q2_12)						(Q28A2Q2_12)								
1	1	7	24	17	3	52	1	1.9	13.5	46.2	32.7	5.8	100.0	52
2	2	18	67	42	4	133	2	1.5	13.5	50.4	31.6	3.0	100.0	133
3	2	20	43	35	10	110	3	1.8	18.2	39.1	31.8	9.1	100.0	110
4	0	8	8	27	10	53	4	0.0	15.1	15.1	50.9	18.9	100.0	53
TOTAL	5	53	142	121	27	348	TOTAL	1.4	15.2	40.8	34.8	7.8	100.0	348
	1	2	3	4	5			1	2	3	4	5	TOTAL	
(Q25A2Q2_10)						(Q25A2Q2_10)								
1	2	10	33	39	14	98	1	2.0	10.2	33.7	39.8	14.3	100.0	98
2	2	21	79	60	6	168	2	1.2	12.5	47.0	35.7	3.6	100.0	168
3	1	15	24	14	2	56	3	1.8	26.8	42.9	25.0	3.6	100.0	56
4	0	7	6	8	5	26	4	0.0	26.9	23.1	30.8	19.2	100.0	26
TOTAL	5	53	142	121	27	348	TOTAL	1.4	15.2	40.8	34.8	7.8	100.0	348
	1	2	3	4	5			1	2	3	4	5	TOTAL	
(Q56 A2Q4_5)						(Q56 A2Q4_5)								
1	0	1	1	1	1	4	1	0.0	25.0	25.0	25.0	25.0	100.0	4
2	2	10	23	17	2	54	2	3.7	18.5	42.6	31.5	3.7	100.0	54
3	1	7	37	29	0	74	3	1.4	9.5	50.0	39.2	0.0	100.0	74
4	0	25	55	62	23	165	4	0.0	15.2	33.3	37.6	13.9	100.0	165
5	2	10	26	12	1	51	5	3.9	19.6	51.0	23.5	2.0	100.0	51
TOTAL	5	53	142	121	27	348	TOTAL	1.4	15.2	40.8	34.8	7.8	100.0	348
	1	2	3	4	5			1	2	3	4	5	TOTAL	
(Q36 A2Q3F5)						(Q36 A2Q3F5)								
1	3	32	104	64	16	219	1	1.4	14.6	47.5	29.2	7.3	100.0	219
2	2	21	38	57	11	129	2	1.6	16.3	29.5	44.2	8.5	100.0	129
TOTAL	5	53	142	121	27	348	TOTAL	1.4	15.2	40.8	34.8	7.8	100.0	348
	1	2	3	4	5			1	2	3	4	5	TOTAL	
(Q32 A2Q3F1)						(Q32 A2Q3F1)								
1	5	22	69	46	12	154	1	3.2	14.3	44.8	29.9	7.8	100.0	154
2	0	31	73	75	15	194	2	0.0	16.0	37.6	38.7	7.7	100.0	194
TOTAL	5	53	142	121	27	348	TOTAL	1.4	15.2	40.8	34.8	7.8	100.0	348
	1	2	3	4	5			1	2	3	4	5	TOTAL	
(Q42A2Q4F_1)						(Q42A2Q4F_1)								
1	4	28	101	72	15	220	1	1.8	12.7	45.9	32.7	6.8	100.0	220
2	1	25	41	49	12	128	2	0.8	19.5	32.0	38.3	9.4	100.0	128
TOTAL	5	53	142	121	27	348	TOTAL	1.4	15.2	40.8	34.8	7.8	100.0	348

Q24 (男性の目を意識して衣服を選んでいると思いますか) について検討すれば、否定派が246名 (全体の70.7%) と相当多く、比率から見ればフェミニストの程度が強くなる程否定する比率は高い傾向となり、ISRO カテゴリー5 (70点以上) では否定する比率が最も高い (81.5%、27名中22名)。逆に、肯定する比率が高いのは ISRO カテゴリー1 (39点以下) のみである。

Q27 (他人や周囲の人達と同じような服装をしている方が気持ちが落ちつく方だと思い

ますか)では、否定派は197名(全体の56.6%)と半数以上を占めており、フェミニストの程度が強くなる程否定する比率が高い。反対に伝統的・保守型には肯定派が多い。

Q28(流行のファッションが好きですか)では、185人(全体の53.2%)が肯定派であり、ISRO カテゴリー1、3に肯定派が多く、逆に、否定派はカテゴリー5に多いが、肯定・否定の両極端の意見はカテゴリー2、4に多い。

Q25(女性の目を意識して衣服を選んでいると思いますか)では、266名(全体の76.4%)が肯定派であり、ISROのすべてのカテゴリーに肯定派が多く、カテゴリー4では121名中99名(81.8%)が肯定しており、肯定する比率が最も高い。

Q56(電車の中で化粧をした経験はありますか)では、否定派が239名(全体の68.7%)であり、フェミニストの性役割志向性が強くなる程否定する比率が高くなっている。逆に、肯定する比率が高いのはカテゴリー1のみとなっている。

Q36(流行の靴を履いたことがある)では、肯定派が219名(全体の62.9%)であり、ISROのすべてのカテゴリーに肯定派が多く、カテゴリー3では142名中104名(73.2%)が肯定派であり、肯定する比率が最も高い。

Q32(耳のピアスをしたことがある)では、194名(全体の55.7%)が否定派であり、ISROのカテゴリー1を除き、否定派が多い。

Q42(魅力的になるために衣服に気を配っている)では、220名(全体の63.2%)が肯定派であり、ISROのすべてのカテゴリーで肯定する比率は高くなっている。

続いて、着目変数に対する2説明変数の組合せにおけるAIC値を表29に示す。

表29によれば、「Q24(男性の目を意識して衣服を選んでいますか)×Q36(流行の靴を履いたことがある)」の組合せが最も関連度が大きく、次に「Q24×Q45(魅力的になるためにメイクアップに気を配る)」、「Q24×Q49(魅力的になるためにアクセサリ小物に気を配る)」、「Q24×Q32(耳のピアスをしたことがある)」となっている。

また、Q24に対してメイクアップに対する項目は単独(2次元分割表レベル)とみなされた項目であるが、2説明変数(3次元分割表レベル)では有効な変数組として選択されており、ISRO(5段階に得点別のカテゴリー化を行った)と無関係であるということは断定出来ないことが明らかとなった。

いま、最適な変数の組合せについて検討すれば、全学生〔大学生(男女)、短期大学生〕においては、ISRO(カテゴリー化した)を着目変数とした場合の最適組合せに対応する分割表(表30)から、ISRO×Q24の2変数の組合せが、ISROを説明しうる最適の組合せである。

表30より、男性の目を意識して衣服を選んでいる否定派は全体の70.7%(246名)であるが、フェミニストとしての性役割志向性が強くなる程否定する比率が高くなる傾向を示している。逆に、肯定派はISRO カテゴリー1に多い。

表29

	(説明変数)	カテゴリー数	AIC値	AICの差
1	Q24A2Q2_8 Q36 A2Q3F5	8	-5.81	0.00
2	Q24A2Q2_8 Q45A2Q4F_4	8	-2.13	3.68
3	Q24A2Q2_8 Q49A2Q4F_8	8	-1.92	0.21
4	Q24A2Q2_8 Q32 A2Q3F1	8	-1.20	0.72
5	Q24A2Q2_8 Q44A2Q4F_3	8	0.04	1.24
6	Q24A2Q2_8 Q47A2Q4F_6	8	4.88	4.84
7	Q24A2Q2_8 Q34 A2Q3F3	8	5.60	0.72
8	Q24A2Q2_8 Q42A2Q4F_1	8	6.13	0.53
9	Q24A2Q2_8 Q53A2Q4F12	8	6.15	0.03
10	Q36 A2Q3F5 Q44A2Q4F_3	4	7.45	1.30
11	Q24A2Q2_8 Q52A2Q4F11	8	7.60	0.14
12	Q24A2Q2_8 Q35 A2Q3F4	8	7.68	0.09
13	Q24A2Q2_8 Q60 CLASS	8	7.72	0.04
14	Q24A2Q2_8 Q37 A2Q3F6	8	8.91	1.19
15	Q24A2Q2_8 Q33 A2Q3F2	8	9.08	0.18
16	Q24A2Q2_8 Q51A2Q4F10	8	9.40	0.32
17	Q24A2Q2_8 Q48A2Q4F_7	8	9.85	0.45
18	Q24A2Q2_8 Q54A2Q4F13	8	10.96	1.10
19	Q24A2Q2_8 Q43A2Q4F_2	8	11.48	0.52
20	Q24A2Q2_8 Q55A2Q4F14	8	11.80	0.32
21	Q24A2Q2_8 Q50A2Q4F_9	8	12.61	0.82
22	Q24A2Q2_8 Q46A2Q4F_5	8	13.58	0.96
23	Q24A2Q2_8 Q22A2Q2_6	16	38.89	25.32
24	Q24A2Q2_8 Q28A2Q2_12	16	41.82	2.92
25	Q24A2Q2_8 Q27A2Q2_11	16	46.66	4.85
26	Q24A2Q2_8 Q25A2Q2_10	16	47.47	0.81
27	Q24A2Q2_8 Q19A2Q2_3	16	51.85	4.38
28	Q24A2Q2_8 Q23A2Q2_7	16	53.02	1.17
29	Q24A2Q2_8 Q29A2Q2_13	16	53.37	0.35
30	Q24A2Q2_8 Q25A2Q2_9	16	54.22	0.84
31	Q24A2Q2_8 Q20A2Q2_4	16	54.69	0.47
32	Q24A2Q2_8 Q21A2Q2_5	16	57.17	2.48
33	Q24A2Q2_8 Q56 A2Q4_5	20	76.62	19.46
34	Q24A2Q2_8 Q59 A2Q4_8	20	79.21	2.58
35	Q24A2Q2_8 Q38 A2Q4_1	24	92.62	13.41
36	Q24A2Q2_8 Q58 A2Q4_7	24	101.69	9.07

以下省略

表30

CONTINGENCY TABLE WITH THE OPTIMAL COMBINATION OF EXPLANATORY VARIABLES

X(1):Q61 ISRO X(2):Q24A2Q2_8

X	RESPONSE VARIABLE					
	1	2	3	4	5	
1	1	5	8	3	1	18
2	2	8	38	32	4	84
3	2	21	71	56	4	154
4	0	19	25	30	18	92
TOTAL	5	53	142	121	27	348

X(1)	1	2	3	4	5	
1	5.6	27.8	44.4	16.7	5.6	100.0
2	2.4	9.5	45.2	38.1	4.8	100.0
3	1.3	13.6	46.1	36.4	2.6	100.0
4	0.0	20.7	27.2	32.6	19.6	100.0
TOTAL	1.4	15.2	40.8	34.8	7.8	100.0

5 おわりに

現代の若者にみられる大きな変化に着目して、私方の大学生（男女）および短期大学生（女）を対象に、心理尺度テスト（性役割志向性尺度：ISRO）および服装や化粧観に関するアンケート調査を行い、若者の現状を分析し、検討したところ、興味ある結果が得られた。

Dreyer, N. A. らの主張する心理テスト（性役割志向性尺度）の結果、女子大学生では、今回の調査においても現代的で非伝統的なフェミニストとしての性役割志向性の強いことが認められた。ドレイヤーらによると、性役割志向性に最も重要な影響力を持っているのは教育であるとされている。つまり、フェミニスト志向性の強い女性は高い教育を受けているということである。女子大学生においては、大学で勉強しようという意識によって、フェミニスト志向性が強く表れたものと考えられる。短期大学生においても近年、その傾向が認められる。男子大学生では、今回、伝統的・保守型の傾向が強い学生は激減し、フェミニストの増加が著しい。東 清和教授の以前の調査¹²⁾では、極めて保守的な男子大学生も見られ、フェミニストは希であったことから、男子大学生のこの変貌ぶりは、現代の若者にみられる変化の一つと考えられよう。

次に、ISRO（カテゴリー化を行った）と服装や化粧観との関連性を調査、分析したところ、さまざまな情報が得られ、①伝統的・保守型、②中間層、③フェミニストの各カテゴリー別の被服行動に対する意識や態度の特徴がある程度認められた。

本研究を今後の学生指導の一助としたい。

謝 辞

本研究を行うに当たり、アンケート調査の実施に際し、御助言、御協力を賜りました大手前大学 堀川 諭教授に深謝いたします。

また、分析に当たり、終始御懇切な御助言を賜りました京都大学学術情報メディアセンター 高井孝之氏に深く感謝し、厚く御礼を申し上げます。

調査実施に際しましては、大手前大学学生並びに同短期大学学生に御協力をいただきました。記して謝意を表します。

引用文献

- 1) 教育アンケート調査年鑑 上、サントリー株式会社（不易流行研究所）（2000）。
- 2) 東 清和・小倉千加子：性役割の心理、大日本図書（1984）
- 3) Katsura, K. and Sakamoto, Y.: CATDAP. Computer Science Monographs, No. 14, The Institute

of Statistical Mathematics, Tokyo (1980).

- 4) Base SAS ソフトウェア使用法ガイド、SAS 出版局、ISBN4-87235-052-9 C3055 (1993)。
- 5) 赤池弘次：情報量規準 AIC とは何か、数理科学、No. 153 pp. 5-11 (1976)。
- 6) 坂元慶行：カテゴリカルデータにおける変数選択プログラム——CATDAP を中心に——、統計数理研究所集報、第28巻第1号 pp. 135-155 (1981)。
- 7) 坂元慶行：カテゴリカルデータの分解、数理科学、No. 213 pp. 24-29 (1976)。
- 8) 坂元慶行、石黒真木夫、北川源四郎：情報量統計学、共立出版 (1983)。
- 9) 坂元慶行：カテゴリカルデータのモデル分析、共立出版 (1985)。
- 10) 東 清和・小倉千加子：前掲書。
- 11) 笹山益子・青海邦子：性格調査との関連からみた本学学生の被服に対する意識と行動（第2報）～統計手法赤池情報量規準による分析～、大手前女子短期大学研究集録9 (1989)。
- 12) 東 清和・小倉千加子：前掲書。

付 記

本研究の一部を、日本生活学会 第28回秋季研究発表大会（2001年11月18日 於大手前大学伊丹キャンパス）において発表した。